

キャンパスニュース

■外国語 honors (英語)

田村 真惟 (文学部・2018年度生)
森田 真菜 (文学部・2020年度生)
永井 佳歩 (文学部・2020年度生)
中根 智樹 (経済学部・2019年度生)
内野 友裕 (理工学部・2020年度生)
宮田 知佳 (生命医科学部・2019年度生)
山崎 大輝 (スポーツ健康科学部・2019年度生)
瀧本 怜佳 (グローバルコミュニケーション学部・2018年度生)
藤田 菜摘 (グローバルコミュニケーション学部・2019年度生)
王 乾宇 (グローバル地域文化学部・2019年度生)

■外国語 honors (中国語)

大西こころ (文学部・2020年度生)
荒巻千香子 (法学部・2020年度生)
吉野 悠希 (グローバル地域文化学部・2020年度生)



(全学共通教養教育センター事務室)

Doshisha Week 2022 を開催

11月25日(金)に今出川校地室町キャンパスの寒梅館「魁の間」にて、チュービンゲン大学(以下、UT)と本学の共催イベントとして、Doshisha Week 2022が開催された。

Doshisha Week は、UTのみならず、ドイツやEU圏内における本学の認知度向上を目的に「研究交流」もしくは「学生・文化交流」に焦点をあてて、2019年度から実施している。

本年度は「学生・文化交流」として、同志社大学書道部およびUT日本学科の協力のもと、日本の書道文化の紹介と西欧のCalligraphyと異なる特質を相互に理解しあう機会とした。両大学で65名の学生のほか、学生運営スタッフを含む関係者28名を含め、総勢93

名の参加があった。

基調講演、研究発表、ワークショップ、作品展示を各大学で対面実施しながら、その様子をオンラインで中継する形で進めた。

開会式は和田喜彦EUキャンパス支援室長の挨拶で始まり、本学書道部の指導者である書道家・小西泰鳳氏による基調講演、UTの国際研究交流担当者であるDr. Karin von Moser Filseckの研究発表が続き、書道知識の概要を共有した。

プログラム後半の書道ワークショップでは、本学書道部員の手引きに加え、2022年度EUキャンパスプログラム参加学生の通訳もあり、本学への留学生も含め学生同士の交流が活発になされた。最後に、UTのProf.Dr.Monika Schrimpf(日本学科長)と下楠昌哉学生支援センター所長の挨拶、参加者の記念撮影があり、華やかに会が締めくくられた。

新型コロナウイルスの影響で、近年はオンライン形式のみでの開催が続いていたが、2022年度は一部対面形式にて試行し盛況のもとに行事を終えることができた。次年度以降は、より両大学間の交流を深められる形で実施していく予定である。



(書道ワークショップ後の集合写真。魁の間にて)



(基調講演：事前収録ビデオ視聴の様子)



(書道ワークショップ後の集合写真。チュービンゲン大学日本学科にて)

(EUキャンパス支援室)

キャンパス内にウォーターサーバーを設置

学生から大学に寄せられた意見をもとに、11月より、学内3箇所(今出川キャンパス良心館1F北ラウンジ横、新町キャンパス尋真館1Fエントランス、京田辺キャンパスローム記念館グランドフロアエスカレーター横)にウォーターサーバーを設置した。マイボトルを持参することで、ウォーターサーバーから無料で安全な飲料水の給水が可能となった。

SDGsの17の目標のうちの一つ「海の豊かさを守ろう」では、海洋環境の保全及び海洋資源の持続可能な利用が重視されている。ペットボトルやビニール袋などのプラスチックは、私たちの日常生活を便利にする一方で、不適切に処分されたこれらのゴミは大量に海に流出し、海の環境を汚染して、海の生き物にも悪影響を与えている。

キャンパス内では、すでに取組が浸透しているエコバックやマイ箸の利用